

2022年度全日本吹奏楽コンクール 課題曲 Tuba ワンポイント・アドバイス

吹部
Navi

I やまがたふあんたじい～吹奏楽のための～

作曲：杉浦 邦弘

8小節目の出だしは、mpのため、音が上手く出せるか不安だと思います。息の使い方やタンギングをマウスピース練習で確認してみると上手くいくかもしれません。35,36小節目は、低い音のアクセントですね。唇の空気が流れている穴を大きく保って、太い息を楽器に入れましょう。[64]以降の練習法は、楽譜のリズムを単音（例えばFの音のみ）に変えて音の形を整えてみましょう。音は上手く区切れていますか？休符で遅くなっていませんか？[120]は、ゆっくりから練習し、アーティキュレーションを正確に吹き分けましょう。一息で吹き切れない場合は、他の奏者とブレスの位置をずらして、ひとつのフレーズに聴こえるように工夫してみてください。

II マーチ「ブルー・スプリング」

作曲：鈴木 雅史

マーチのベースは「聴いている人が歩きたくなるように」を目指しましょう。音の長さで迷ったら「裏打ちと被らない長さ、交互に聴こえる長さ」を意識するとうまくいくかもしれません。メロディと同様にベースラインにも、フレーズの『山』がありますね。テンポキープを意識しながら心地よい表現を研究しましょう。[C]と[H]の第2マーチの旋律は、ffやアクセントに意識が行き過ぎると1小節目ごとの短いフレーズになってしまいます。4小節目の中でどのようなフレーズにしたいのか話し合ってみましょう。111小節目の最後の音は、1拍目のAの音とオクターヴ離れていますので音色に気をつけてください。

III ジェネシス

作曲：鈴木 英史

フルスコアの解説に「マーチではありません」と書いてあります。音と音の間が空きすぎたり、跳ねた印象になったりしないように演奏しましょう。2パートに分かれて演奏する場合の上と下に分かれたCの音（4小節目など）は、ピッチが合いにくいと思います。この曲に何度も出てくるパターンなので、バランスなどにも注意しながら、よく聴き合ひましょう。「13,14小節目、37,38小節目」と「68,69小節目」はアーティキュレーションが違いますね。それによって、重心の位置が変わることに注目してみましょう。[C]はcantabileを表現するために、音の長さ、リリースの形、ブレス後のアタックの形などに気をつけるとうまくいくと思います。[F],[G]は、Cの音を連続して演奏することによって、練習番号Hに向けてエネルギーを貯めていると考えることができそうです。シンコペーション、テヌートがある音とない音などをどう表現するかを吟味して、表現の違いを楽しみたいですね。

IV サークスハットマーチ

作曲：奥本 伴在

フルスコアの解説にある2つの基本リズムを普段のタンギング練習に取り入れてみましょう。マーチの奏法については、課題曲IIを参考にしてください。7小節目のリズムパターンは、16分音符のCの音に重心を置くと、サーカスのワクワク感が表現できると思います。[D]は、アルペジオを演奏しているBs.cl., Bar.Sax.と練習をし、1つの伴奏形になるように練習しましょう。[G]における基準のリズムはS.D.の3連符ですが、練習番号Hにおける基準のリズムは8分音符に戻りますね。このことに注目して、marcatoとスタッカートの違いをどのように表現するか研究してみましょう。

V 憂いの記憶－吹奏楽の為の

作曲：前川 保

ダイナミクスが細かく設定されています。音を8分音符等に分割し、一つひとつの音にダイナミクスを割り当てる練習が効果的だと思います。[C]は、長いフレーズの旋律です。ブレスの位置を熟考し、チューバパートとして1つの旋律に聴こえるように工夫したいですね。[H]以降は、変拍子の強拍、中強拍を考慮したうえで、アクセントやダイナミクスをどう表現するかを整理しましょう。